

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

【実践者】

氏名	太田 祥子	学校名	東京都・道・府・県 私立 駒場東邦中学校
担当教科等	地理	対象学年（人数）	2 年 1 ～ 6 組（ 各 43 名）
実践年月日もしくは期間（時数） 1 時間	2025 年 11 月 17 ～ （ 1 時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：世界地理（南アジアの地誌）				
2. 単元名と単元目標 単元名：世界地理 単元目標：南アジアの地誌 関連する学習指導要領上の目標：気候や文化や産業、地理条件や経済課題を理解する。				
3. 単元の評価 規 準	①知識・技能	地理や経済関連データを読み解く力		
	②思考・判断・表現	資料や条件をもとに、自らの考えを説明する力		
	③主体的に学習に 取り組む態度	自分の意見を踏まえた上で、班員と協力して結論を導き、 発表する力		
4. 単元設定の 理由・単元の 意義 (児 童 / 生 徒 観、教材観、 指導観)	【単元設定の理由】途上国の経済・社会的な課題と将来の可能性を考える。 【単元の意義】途上国や貧困問題を考えることで、自らの「当たり前」を問い直す。 【児童／生徒観】途上国の社会制度や経済は「遅れている・日本が安全でいい」という印象の生徒が多い。【指導観】日本のシステムが「当たり前・ベスト」で、「日本の利益は自国のもの・支援の意味が不明」という意識を変えたい。			
5. 単元計画（全 3 時間）				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	南アジア地誌	南アジアの地理情報の学習	バングラデシュを中心に、地理や産業の現状、経済の課題を学ぶ。	資料集、地図帳 各国基礎データ
2 本 時	融資の決定作業	融資を通じて貧困を考える	班で融資先を話し合っ決定する	作業シート
3	考察とまとめ	貧困の定義や国際協力の意義を考える	貧困＝お金がない以外の側面、日本の「信用」の意味と課題を考察する	生徒の考察や感想の紹介
6. 本時の展開（2 時間目） 本時のねらい：融資の決定活動を通じて、バングラデシュの課題や貧困の定義を考える。				
過程・時間		教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態		指導上の留意点（支援）

導入 (10 分)	1. 導入：バングラデシュ情報の復習、作業の説明	学習情報の確認 知識の活用 合意形成の留意点の示唆
展開 (30 分)	2. 班の発表準備作業：7 名×6 班に分かれて話し合い作業	
まとめ (10 分)	3. 班の発表：代表者が班の意見を発表	
	4. まとめ：貧困や信用の定義の考察、作業シートの記入	
7. 資料（教材） 配布した資料・作業シート（最後に一部を掲載）		
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 自分の意見を資料に基づいて表明し、班での話し合いを行い、説得的に結論を発表できたか。 授業後の考察において、気づきをもとに、日本や国際社会の貧困対策の意義を理解できたか。		
9. 学校外との連携 ※JICA 以外。なければ不要。 学外から多くの先生方に見学に来ていただき、協議会で有意義な指摘をいただいた。		
10. 学びの軌跡（児童生徒の反応・変容、感想文、作文、ノートなど）		

融資先の結論(6 班×6 クラス=36 班)

小作人パイパイ:14 班 村の主婦マンガ:9 班 IT 社員ダッカ:8 班
縫製員ライチ:4 班 出稼ぎ労働者リキシャ 1 班

融資先の決定理由・発表内容より

小作人

選んだ理由・社会貢献効果

- ◆収穫量を上げることで現金収入が増え、新しい技術が村全体にも伝わっていく効果がある。
- ◆産業技術の革新は、第三次産業だけではなく、農業分野にもあてはまるはずだ。バングラデシュの就業人口の多くは農業従事者なので、農業分野に融資することの影響は大きい。
- ◆米の増産によって、国内の飢餓が無くせるだけではなく、将来的に、米の有数の生産国から輸出国になることが期待でき、世界の食糧不足にも貢献できる。
- ◆農業指導で村人から信頼されているので、担保となる資産はないが、保証人となる人は多いだろう。

懸念点

- ◆新種の苗が上手く育たない危険性がある。また、小作人であるため、担保となる土地を持っていない。
- ◆国土の多くがデルタ地帯で洪水被害に遭いやすく、農業分野でのリスクが高い。

村の主婦

選んだ理由・社会貢献効果

- ◆今までの家事労働の経験から、鶏を育てる技術は持っている。養鶏のビジネスをすることで、現金収入を得ることができ、農村で雇用が創出されて、都市との経済格差の縮小に貢献できる。
- ◆日本人の 3 倍近い量のお米を食べるが、食事内容が偏っているため、卵を売ること、たんぱく質を得られるなど質の高い食事を提供することにもつながる。

懸念点

- ◆鳥インフルエンザなどが流行したら、事業が失敗する可能性がある。
- ◆村で卵を作っても、都市部まで運んで販売までできるルートがない限り、ビジネスにはならない。
- ◆読み書きができないので、銀行の書類手続きができない。

IT 社員

選んだ理由・社会的効果

- ◆大学を卒業したエリートで、資産もあって返済が確実にできそう。
- ◆縫製産業に輸出の 8 割を依存しているのが課題なので、縫製産業以外の高付加価値の産業の育成に

貢献できる。

- ◆IT人材の育成が、この国の産業の高度化につながる。この人が就職して部下を育成すれば、さらにIT人材が増えてGDPの向上につながる。

懸念点

- ◆失業中の仕事探しの生活費の足しになって終わってしまう可能性がある。
- ◆この5人の中では充分恵まれているので、この機会にあえて融資する必要性は他の人よりは低い。

縫製員

選んだ理由・社会貢献効果

- ◆子供の数が多い一方で、公立教育の質の遅れも課題なので、子供の未来に投資することが重要だ。
- ◆英語を話し、専門知識をもつ高度人材の育成に貢献できる。

懸念点

- ◆子供が最終的に大学まで卒業するには、あと何年もかかり、今回の融資だけでは賄えない。
- ◆縫製員の給与は低いので、融資をしても返済できるか不確実だ。

生徒の発表結果の分析

- 個人作業の段階で「この人に融資する」と決めていた人物から、班で話し合っ一致した融資先の結論に至るまで、バングラデシュの所与の課題や社会貢献効果を考えつつ、多角的に考え、ベストな選択肢を導きだそうとしていた。
- 個人作業の段階では、資産保有があり大卒で、将来像的に現在の生徒が想像しやすい立場のIT社員が選ばれていた。しかし、班員と話し合い、社会貢献効果や、将来の新しいビジョンや可能性を踏まえて、農業分野への投資という新しい見方を提示するようになった班が多かった。
- 銀行員としての前提条件、すなわち、確実な返済と社会貢献効果、両方を踏まえる必要があるという前提条件があったが、両者のバランスをどうとるのかでも、班内で意見の相違がみられた。

【生徒の感想】（事後の感想記入シートより）

企業活動と社会貢献の両立について

（両立の難しさを実感）

- ◆社会貢献しそうだと思ったものほど、失敗するリスクが高いと思ってしまった。企業として利益を得そうなものほど、社会に貢献できているのかは疑問に思えてくる。
- ◆社会貢献はしなければと思うのだが、やはりリスクはとて大きいと思った。投資家目線だと難しい。
- ◆貧困層より、ある程度信用や資産がある人に融資した方が結局は利益が多くなるが、それらが無い人に助けの手がない限り、貧困の根本的な解決には至らないのが難しいと思った。
- ◆社会貢献の利益として得られるものは、長期的に考えないと捉えにくいので、企業活との両立は難しいと思った。

（両立の迫及の意義の発見）

- ◆企業活動を成功させるためには、安定した成長を意識してしまいそうだが、企業内で労働環境の改善など、働く人のため、そのサービスを受けている人のために少しリスクを負っても改善すれば、中長期的な企業の成長につながると思う。
- ◆リスクが少ないなどを重視しすぎて、貧困所帯の改善につながらないこともあると思う。目の前の利益も大事だが、若い世代としては、数十年先の利益も見るのが大事だ。
- ◆社会貢献は大切だけれど、バングラデシュは国内の企業活動をさらに発展させることが重要なので、まずは利益第一になってしまうのではないかな。だからこそ、先進国が発展途上国を助けるという役割が意義あるものになるのだと思う。
- ◆貸した金が確実に帰ってくる人に貸すのは、企業活動として当然のことだが、それだと新たな面に挑戦することが厳しく、貧困が固定化され、社会貢献になりえない。企業側が譲歩しないと、貧困からの脱却は難しいだろう。
- ◆個人への融資によって、個人だけではなく、社会全体が豊かになっていくようなことはあるのだと

感じた。

- ◆社会貢献事業は、利益を得ようとするのではなく、企業のイメージアップとして多少のリスク覚悟で取り組むべきだ。
- ◆1つひとつの企業の発展が、雇用の増加につながり、それに伴って教育が新しい仕事など、社会全体の産業が発達すると考えることができる。

(貧困の定義の再考)

- ◆文字が読めず、収入が低いと融資を受けることが難しくなってしまうので、貧困のままになってしまふことが分かった。
- ◆小作人のパパイヤさんのように、現金収入は少ないが、自給自足できている人がいるため、貧困はお金だけではなく、土地などの資源へのアクセスだと理解できた。

金融分野における「信用」に関して

- ◆日本だと「定職」があり、財産保有があることが「信用」となるが、世界で生きていく上での「信用」は、やはり「将来性」にあるのではないかと。例えば、年齢があてはまる。若ければ働けるので、バングラデシュの平均年齢が28歳と若いことは、それだけ可能性があることだと思った。
- ◆「信用」とは、お金のことだけではないと思った。自然災害によるリスクも考えていく必要があると思った。
- ◆「信用」されるためには、読み書きができることが前提条件で、今までの人間関係も大切だと思った。
- ◆日本だと定職についているかは重要だが、無職に風当たりが強いのは、こういうことも関係していると思う。世界での「信用」される条件は、十年後の利益だと思う。
- ◆技術がある人には多くの信用があり、識字率や学歴は低くても、勉強や仕事にやる気のある人には多くの信用があると思った。
- ◆日本においては、資産などが「信用」において重視される。しかし、将来においては、持続可能という視点から、「信用」を得るためには、ビジネス拡大などの可能性があるということが大切になると思う。
- ◆日本だと「信用」は財力になるが、世界で生きていく上では、仲間が必要だと思う。日本ではなくても、仲間をたくさんつくれる人は、すごいと思う。

【本時または単元について、個人で振り返ったことを記載】

11. 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか	「貧困の定義」＝お金ではなく、機会や資源へのアクセスがないという側面に留意し、誰にでも機会を開く社会制度の意義を考えさせたい。個人のチャンス→国内の成長→国際社会への持続可能な発展…という視点を持たせるような具体例を紹介していきたい。可能性が与えられる人が多くなれば、途上国や国際社会全体の持続発展的な発展につながっていく可能性が生まれることを伝える。
12. 苦労した点	情報をたくさん提示しすぎて処理できない生徒がいた。大人数であるための措置だが、7名1班だと意見がまとまりづらかった。
13. 改善点	利益重視以外に、中長期的な視点が、持続可能な経済成長のためには必要だという視点を伝えられた。
14. 成果が出た点	具体的な登場人物を設定し、それぞれの場面で直面している困難を紹介することによって、抽象的な「国」ではなく、バングラデシュの「人々」という視点で考えてもらうことができた。その際、海外研修で撮影した写真（農村風景、縫製工場の現場、鶏肉売り場、リキシャの渋滞など）が、視覚資料として大いに役に立った。バングラデシュの産業や地形や貿易構造を学んだ上で、それを踏まえて融資先を決める作業にしたことで、生徒が目的をもってこの国の情報を見直すことにつながった。
15. 自由記述	社会貢献と利益の追求は難しいけれど、必ずしも矛盾しないことを伝えることができた。

【資料配布プリントより（一部抜粋）】

※以下の5人は、それぞれの理由で **10万タカ（※約12万円）** を必要としており、銀行からの融資を受けたいと思っている。上の条件を踏まえた上で、誰に貸し出すべきか？

農民パイヤさん 43歳。地主から借りた田を耕し収穫の半分を小作料として支払う。小さいころから農業一筋で、村人に農業指導をして頼りにされている。小作料の残りの米を家族の食料にし、余った分は市場で売っているが現金収入は少ない。もっと多くの米を収穫するために新しい品種を試したいと思っているが、新種の苗は高く買えない。

村の女性マンガーさん 38歳。小さな借家で子供4人を育てる。夫は病気療養中。「女性に教育は不要」という昔の考えで小学校は中退した。家事が得意で、特に鶏を育てるのが上手で村の女性達に卵を売っているが、広い養鶏場を作って卵を売るビジネスにしたい。

人力車で稼ぐリキシャさん 27歳。村の家族に仕送りするために、ダッカで人力車の運転手や建設工事の日雇いで働くが、収入は不安定。もっと賃金の高いドバイに出稼ぎに行くことを考えており、渡航費が必要。村から一人出てきて、ダッカに知り合いはいない。

ビジネスマンのダッカさん 35歳。外資系のIT会社に勤め、この国では月収8万タカの高水準の定収入で、親から譲り受けた土地に自宅もある。しかし、IT業界の競争が激しく、勤務していた会社が倒産したため、現在失業中で、ダッカの高い生活費に悩んでいる。

縫製工場のミシン職人ライチさん 31歳。日系企業で、日本向け衣服を製造する工場働く。娘2人は地元の公立学校に行っているが生徒数が多すぎて、午前午後の二部制で学習時間が少ないので、母親として私立学校で英語を学ばせたいが、2万タカの月収では足りない。

生徒発表原稿

駒東バンクの我々のチームは、JICAの職員、および我が銀行に資金提供をしてくれている、この場にいらっしゃる投資家の皆様に、以下を提案します。
我々は、5人のうち、〇〇の〇〇さんに、10万タカを、年利4%で貸し出すことを提案します。
我々はバングラデシュの統計資料から、この国の課題は、

_____であると考えます。

一方、将来の経済成長の可能性については、

_____であると期待しています。

まず、〇さんに融資することで、〇さん個人には、_____というメリットが生まれます。

〇さんに融資することで、〇さん個人に対してだけではなく、
バングラデシュ国内には、_____という社会

貢献的効果が生まれます。

さらに、我々が生きるグローバルな社会を考えると、

国際社会全体には、_____という社会貢献的効果が
生まれます。

もちろん、〇さんに融資することで、_____というリスクは
ありますが、きちんと融資したお金と利子を返済してもらえると確信しています。

以上に述べたようなメリットと、利子による利益獲得、

および社会貢献が期待できるため、JICA および投資家のみなさんには、

ぜひ〇さんに融資すべきという我々のチームの案を採用していただきたいと思います。以上です。

参考資料・使用教科書

慎泰俊『世界の貧困に挑む・マイクロファイナンスの可能性』岩波新書、2025年

外川昌彦（編著）『現代バングラデシュ・経済成長と変動する社会』東京大学出版会、2025年

J.モーダック・S.ラザフォード『最底辺のポートフォリオ（新装版）』みすず書房、2021年

黒崎 卓・栗田 匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学』有斐閣ストゥディア、2016年

大橋 正明（著・編集）『バングラデシュを知るための66章（第三版）』明石書店、2017年